

「里山保全・竹林整備」で

大好きな「いの町」へ

答弁Ⅱ将来的には、里山保全策の検討必要あり



池沢 のりこ 議員

枝川から仁淀川まで、南と北の里山に囲まれ住宅地が広がっている。高知西バイパスなどにより里山が分断され、そこに住んでいた動植物たちもすみかを少なくした。

しかし、まだまだ小鳥のさえずりがあったり、トンボや蝶がとんだり、虫がいたり、自然は残っている。親子づれなど散歩の人たちとよく出会う。西の山に沈む夕陽・夕焼けもなかなか捨てたものではない。高知西バイパス整備で、もとの赤道の復活によりできた里山へ通じる階段がある。上がったところは、災

害時の避難場所にもなっている。さらに階段を165段登ると私たちの住む枝川く北内地区などが見渡せ、心が和らぐ。その風景は、地域の資源であり宝物だ。

さらに、自然の遊歩道（昔の赤道）が、ぐるりと南の山を巡っている。その昔、

私たち百姓が、牛にフゴをつけ荷物を運び農作業のため往復していた道だ。60年程前に国策により植林した杉やヒノキは、手入れ不十分のまま。さらに耕作放棄地が広がり、おまけに竹林が広がり続けている。

里山の保水力は減り続け、大雨時には多量の雨水が住宅地へと流れ込んでしまう。里山保全・竹林整備は、今後のまちづくりにおいて必要不可欠でないか。

野村森林政策課長

野生動物と人間の共生とあった観点からの里山保全の必要性は、極めて重要な。野生鳥獣による農作物な

どへの被害の対応とともに、森に近隣する農地・川・池などと一体となった適切な保全について土地所有者をはじめ地域合意はもちろん専門家の意見を聞くなど、将来的には里山保全策の検討を行う必要がある。

竹林整備については、平成28年度から荒廃した竹林を広葉樹林などへ転換を図る事業を町単独事業で実施し、平成30年度末までに約1.5haの荒廃竹林の改良が見込まれる。

対象地の多くが地籍調査未了地にあり土地の境界確定など課題もあるが、平成31年度から創設予定の森林環境譲与税（仮称）も財源に充て、今後さらに強力に進めていく。

風評被害のないように

池沢議員

枝川は、大シヨウガ発生地の地だ。農家は、日々研究を重ね実直にシヨウガを作り続けてきている。町内業者の産地偽装事件による風評被害が想像されることもある。町としての対策は。

池田町長

「安全安心な高知県産シヨウガ推進協議会（仮称）」に参加するなど、町としても信頼回復に取り組んでいく。

借楽荘 民営化

池沢議員

ここ数年間、毎議会のように介護員不足（募集しても応募なし。雇用しても長く続かないなど）による予算の減額が続いている。

もう、町立としての運営は、限界を迎えてないか。民営化の検討について問う。

池田町長

現時点では、民営化という方針を立てるには至っていない。検討が必要かと考えている。

未来を考えての機構改革をすべき

池沢議員

池田町政になって、丸2年が過ぎた。毎年の課の増設は、受け入れ難い。いの町の未来を考えての機構改革を行うべきだ。いの町第二次行政改革大綱（平成22

（26年度）が策定済みだ。

今後、いの町第三次行政改革大綱策定に向けて、住民の意見を聞くべきだ。住民に寄り添う池田町政なら行政改革検討委員会を立ち上げるべきでないか。

池田町長

検討委員会の設置については、必要と考えている。庁議などで検討していく必要があると考えている。

仁淀病院（駐車場）

池沢議員

今後の仁淀病院経営改善において、患者確保のためには、駐車場の広さはどのくらい必要と考えているのか。

池田町長

現在調査中だ。

その他の質問

①いの町中心市街地活性化・来年度予算を伴う事業は。（答Ⅱ具体は、言えない）

②吾北・本川地区で介護難民を出さない方策は。（答Ⅱ改善の見通し）